

## 学校の評価 と 保護者・地域の願い

10月6日（木）、7日（金）と2日間、町の教育委員会の方々が学校にやって来られました。6日は池田課長補佐と吉田係長が「抜き打ち」学校訪問、7日は馬屋原教育長、石田課長、白石調整監が実態調査で三和中の教育の様子を見て、ご指導をいただきました。以下、校長に話された内容をそのまま記します。

「どのクラスも集中して、静かに勉強していた。以前は教室内が殺伐としていたが、整理整頓もできている」（池田課長補佐）

「正直言ってビックリ感がある。教室の雰囲気や掲示物の掲示の仕方が以前と違ってきちんとしており驚いた」（吉田係長）

「文化祭を見て変わったと思うことが多くあった。その一つは全校合唱。特に男子が良かった。二つ目は生徒の動き。自主的に素早く整然と行動できていた。三つ目は、生徒の態度。開会式時の服装もきちんとそろっており気持ちよかった」（馬屋原教育長）

「以前から三和中は気になる学校で、度々学校訪問をしてきた。授業態度、授業規律等が確かによくなっている。以前は殺伐とした、乱れた雰囲気があり、町議会でも話題になった。そのため、去年は議会文教委員会で学校訪問をした。その時でさえ、乱れた雰囲気のある授業があり、議員から批判を受けた。今年は、基本的な生活習慣がどこまで改善されているのかという視点で三和中を視ていた。文化祭を見て、高まっていると感じた」（馬屋原教育長）

「先生たちのやる気をもって仕事をしていると感じている。教職員によんだ空気を今年を感じない」（馬屋原教育長）

「若い教職員がいきいきと仕事をしていると感じる。生徒指導主事は若いですが、その誠実さで他の若手教員をよく引っ張っている。若手教職員は新採用された最初の学校で学んだことが生涯の教員生活に大きな影響を与えるものだ」（馬屋原教育長）

「若手教員が多く、正直頼りなさを感じていたが、それぞれしっかりしてきて、頼もしく感じるようになってきた」（馬屋原教育長）

「校長は『当たり前前の学校』から『胸をはれる学校』にしたいと考えているようだが、これは多くの保護者や地域の願いである」（馬屋原教育長）

「三和中がどうみられているか」という外部からの視点に敏感になることは、目の前のことに追われる毎日を送っている私たちにとってとても重要です。さらに脇をしめて、下半期に入った「三和中教育」を進めていきましょう。そこでこの際、三和中の目指しているものを、保護者・地域の視点から改めて整理してみたいと思います。

- ① わが子、わが学校の生徒に希望高校に入れるような、また社会でたくましく生きていけるだけの学力をぜひつけてやってください。そうしないとわが子の将来が心配です。 **学力向上に挑戦し続ける学校**
- ② 規律やしまりのあるピシッとした雰囲気のある学校、お互いを思いやるやさしさのあふれる温かい雰囲気のある学校にぜひしてください。そうしないと安心して子どもを学校に預けられません。 **規律と温もりのある学校**
- ③ 地域にとって誇れる学校にしてください。そのために協力は惜しみません。また、地域づくりに中学生の力も貸してください。この町の未来は教育にかかっているんです。 **地域とともにある学校**